

和歌山県海草郡紀美野町

世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営 (コミュニティカフェ等での実践を通じて)



【地域の基礎データ】

人口：8,746人（令和元年9月末現在）

高齢化率：45.4%（平成31年1月1日現在）

産業：棕櫚製品製造業、農業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：11名（1回生：4名、2回生：3名、3回生：2名、4回生：2名）

活動期間：平成27年4月～

担当教員：藤井至

1. 活動実施の経緯

紀美野町では、平成27年度より、認知症当事者やその家族、地域住民、行政職員、社協職員等が気軽に集い、交流することを目的に、コミュニティカフェ「きみの*にco cafe（以下、にこカフェ）」を開催している。このカフェは、町内のコミュニティカフェを活用して月に一度実施されるもので、年齢、性別を問わず多様な人々がカフェを訪れることで、認知症当事者やその家族に楽しみや安らぎを与えるとともに、カフェ参加者の認知症への理解が促進されることが期待されている。本プログラムにおいては、にこカフェの取り組みを中心としながらも、少子高齢化の進行している紀美野町において貴重な世代間交流の場をいかにして作り上げることができるか。また、既存の世代間交流の場をいかにして、維持・運営していくことができるのかについて考えることをねらいとしている。

2. 活動の内容

本プログラムにおける学生の主な活動内容は以下の通りである。活動によっては、イベントの企画自体から関わっているものもあるが、当日の支援のみの活動もある。

- ・認知症サポーター養成講座：認知症や紀美野町に関する知識を身につけるべく実施
- ・にこカフェ（毎月第4金曜日）：運営サポートと秋祭りの企画・運営など
- ・ふれあい昼食会（毎月第3土曜日）：運営サポートとメニュー等の提案など
- ・こども食堂（キノコ食堂）（毎月第2金曜日）：運営サポートと親子向け企画の実施など
- ・地域活動訪問と観光資源聞き取り：サロンの訪問と観光資源のヒアリング・訪問など

3. 活動を通じて

イベント等の企画においては、世代問わず親子で楽しめる企画や紀美野町ならではの企画を実施するべく、毎週一回会議を行い検討してきた。イベント参加者からは、好評を得ることができ、大変良い活動であった。しかし、活動間の連携による世代間交流の場の創出までは至らず、地域活動間連携の難しさを感じた。この点は、今後の課題としたい。

4. 成果物など

NICO CAFÉ LIP

テーマ；世代間交流を促進する地域拠点（コミュニティカフェ）の企画・運営

活動地域；和歌山県海草郡紀美野町（吉見地区）

2019年度メンバー；1回生4人 2回生3人 3回生2人 4回生2人

【にこカフェLIPについて】

にこカフェLIPは和歌山県の紀美野町を拠点に活動しています。主な活動内容としては、紀美野町で開かれているコミュニティカフェであるにこcaféに参加し、地域の方々と交流しています。高齢者施設からも遊びに来てくれるので、認知症サポーター養成講座を受講し、接し方を学んでいます。それだけでなく、ふれあい昼食会やキノコ食堂にも参加してごどもからお年寄りまで幅広い年齢層の方々と交流を通して、世代間交流の促進に努めています。

2019年度の活動

コミュニティカフェ にこcafé（一回生 早坂奈々）

認知症カフェ「にこcafé」では、紀美野町在住のお年寄りや、サービスに通っておられる方やお茶やお菓子を囲んでお話をします。その傍には、いっしょに絵を描いたり、編み物をしながらコミュニケーションをとりました。認知症はもちろん見目で判断できないものなので、「どこからきたの？」と何度も同じことを質問されるまで、全く気づくことができませんでした。最初は戸惑ってしまいましたが、認知症の方のように接するべきなのかわからなかったのですが、笑顔で相手をしながらお話を聞くと、案外そうに喋ってくださってうれい気持ちになりました。また、私は編み物をしたことがなかったので、お年寄りの方からそのような知識を得られる良い機会でした。2019年度は「にこcafé」で秋祭りを行いました。たくさんのお年寄り・お年寄り・私たち大学生が集まり、まさに世代間交流の場になりました。



にこcafé 秋祭り（三回生 本田侑子）

例年、にこcaféを開催している「ふれあい広場紀美野」で夏祭りを行なっているのですが、今年は秋祭りをし、季節を感じられるイベントで皆さん楽しんでくださいました。今回のイベントでは、普段にこcaféにいっしょにお年寄りの方々と近くの保育園に通っている園児さん、私たち大学生で集まり、絵葉書作りと秋にちなんだクイズ大会をしました。絵葉書作りでは、皆さん思いの絵を描き楽しんでうっしり、家に帰って「両親にプレゼントする！」と書いていた園児さんもありました。クイズ大会は、秋についての知識が増え私自身勉強になりました。最後には園児さんから歌のプレゼントがあり、歌を聞いたお年寄りの方々で感動して泣かれていた方もいらっしゃいました。イベント中には、地域の方と大学生との交流はもちろんですが、お年寄りの方と園児さんで会話をしている場面が何度も見られ、私は有意義な世代間交流の場になったのではないかなと感じました。これからも、地域外で生活している 私たちの独自の目線から、紀美野町の方々とサポートできたら嬉しいです。



キノコ食堂（一回生 谷口紗彩）

紀美野町では、毎月第2金曜日にこども食堂が開催されています。キノコ食堂とは、「き」み「の」「こ」ども食堂から名前がつけられています。ここでは、地域の子どもやその家族を始めとした地域の住民に晩ご飯を提供しています。私たちは、主に料理の盛り付けや配膳のお手伝いしながら地域の方や高校生のボランティアの友達との交流を深めました。食事を通して、この場所は世代間交流、お母さん方の情報 交流の場になっていると感じました。また、食事を終えた子どもたちが退席しないように、楽しい思い出を作ってもらえるようにとコースター作りも行いました。紀美野町で集めた木材を薄く円型に切り、そこに絵を描いてもらったり、シールを貼ってもらったりしながら、材料にも こだわったコースターを作ることが出来ました。準備は大変でしたが、「楽しかった。」と沢山の子どもたちが喜んでくれてやがたを感じました。



ふれあい昼食会（二回生 杉本梓）

ふれあい昼食会は、にこcaféを開催している「ふれあい広場紀美野」で月に1度開催されている昼食会です。ふれあい広場紀美野の運営をして下さっている方々がお料理をしてくださるので、私たち大学生は洗いや拭き、一層に料理を手伝ったりしています。参加者の方が来られると、みんなで1つのテーブルを囲んでお話ししながらご飯を食べます。お料理はいつも美味しく、紀美野町のおばあちゃんやおじいちゃんとお話をしている時、私たちまで元気をもらえるくらい皆さんパワフルで、昔の思い出など、私たちが知らないことをたくさん教えてくださいました。私は、一回生の頃から、このふれあい広場紀美野においでして、二回生になるとだんだん皆さん顔を覚えてくださり、気さくに話しかけてくださることが本当に嬉しいです。いつも元気をいただいている私たちが、紀美野町の方に毎月の楽しみをこの場で提供できるように、これからも頑張りたいと考えています。

認知症サポーター養成講座（一回生 遠藤愛理佳）

ケアマネジャーの方に認知症の症状や認知症の予防方法、そして認知症の方にどのように接すれば良いかなどをパワーポイントやビデオを用いて分かりやすく教えて頂きました。また、紀美野町のPR動画も見て頂いて、紀美野町について知ることもできました。初めての受講で、認知症について知らないことも多くあり、とても貴重な機会となりました。さらに、受講終了後は、認知症サポーターの証としてブレンジリングを頂き、自分も認知症サポーターの一員になったことを実感できました。今回学んだことを自分の周りの人に伝えたり、認知症の方やその家族の方の気持ちを理解し、尊敬を大事にした対応をするなど、自分で出来る事から始めていこうと思います。そして、認知症の方やその家族の方を温かく見守る応援者になりたいと思います。

夏合宿（二回生 杉本梓）

今年度の9月には、念願の合宿を1泊2日で行いました。紀美野町のみさと天文台よりさらに標高が高いところにあるお家で宿泊させていただきました。1日目の夜はいつもお世話になっている、ふれあい広場紀美野の方やそのご家族、知り合いの方も来られてみんなでバーベキューをしてお話をさせてくださいました。2日目は、役場で紀美野町に隣接する隣町を訪れたり紀美野町で行われている「いきいき百歳体操」という体を効果的に動かす運動に学生も参加して体験させていただきました。きれいな星を見ながら団圓したり、紀美野町の町を回ってどんなところなのか知ることができた貴重な機会でした。

